

School Library

令和6年2月19日発行 担当：図書委員会1年生 2月号

学年期末考査が近づいてきました。

勉強の参考になる本を探したり、気分転換をしたりするときには、ぜひ図書館へ！

また、イベントが2月16日（金）から開催されています！詳しくは、ポスターをご覧ください。
みなさんの参加を待っています。お楽しみに！ (担当：1-)

図書子からの挑戦状！開催中

*例

2月16日～3月2日

校内に貼られた図書子からの挑戦状！

そこには謎解きが書かれています。

謎解きの答えは…

図書館に来て確かめてください。



私と読書先生



幼少の頃から活字が苦手で、なかなか本を読む事が習慣化しなかった私ですが…そんな私でも興味を持つ分野がありました。それはSF（藤子・F・不二雄先生の言葉を借りて、少し不思議）分野です。過去に戻れる車があったなら、同世代のクラスメイトが入れ替わったなら…など日常から少し離れた変わった世界観の物語が大好きでした。

今回このページに自分の話を載せてもらうとなり、自分と同じように本を読む事が苦手な人でも読めて、少し不思議な体験ができる本を探しました。

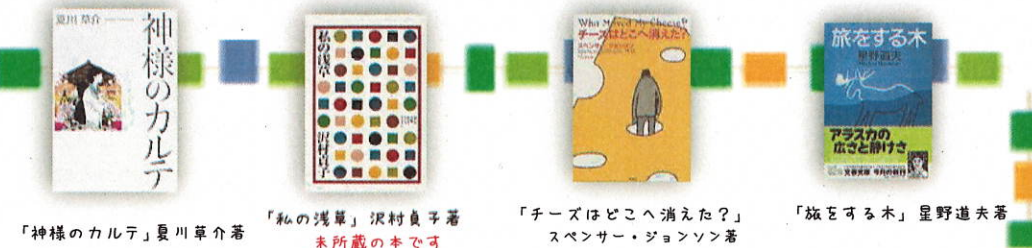
タイトルだけ見ると、何を忘れ物したのかな？となると思います。ぜひ皆さん自身で読んで、主人公は何を忘れたのかを考えて欲しいと思います。毎日会える友達や仲間、好きな人と過ごす時間などは日常にありふれていて、当たり前存在していますが、そんな日常こそが大切な宝物だと感じさせてくれる一冊です。

(担当：1-)



「午前の忘れ物」 赤川次郎著 未所蔵の本です

私と読書先生



中学生の頃から本屋に行くのが好きでした。何を読もうかな、と、本を眺めているのも好きでした。ここ数年は、ゆっくりと本を読む時間が取れず、「乱読」「積んどく」になりがちでしたが、活字中毒の私は一念発起(?)、今年の夏休みに『神様のカルテ』全5冊を読みました。親しかった友人が読書家で、最後にバッグに忍ばせていたのがこの本だったことと、我家には各部屋の本棚とは別に家族共有の本棚があり、全巻置いてあったのもひとつのきっかけでした。『神様のカルテ』は、人にとって大切なものは何かを教えてくれるような本で、暑くて長い夏休みに、シリーズを一気に読んで爽快感と充足感を味わいました。今年の冬休みには『私の浅草』を読みました。1月末に1年の校外学習で浅草周辺を訪れることを知った、ある企業の元雷門支店長だった方が「お年玉！」と言って、アマゾンより送ってくださった本です。浅草で生まれ育った女優の沢村貞子さんが書いたこのエッセーは、軽妙洒落な語り口調で、昭和の香りや下町の暮らし、人情が伝わってきます。本を読んでから行ったので、浅草の町により一層親近感を覚え、沢村貞子さん出身の浅草小学校を目の前にしたときには、感動すらしました。

今の私が本と出会う時は、もっぱら家族共有の本棚か、新聞の本の紹介欄です。『チーズはどこへ消えた』は本棚から。『旅をする木』は、新聞に小さく紹介された、ある一文に惹かれて買いに行きました。

本は心の栄養です。ぜひ、色々な本と出会って、読書を楽しんでください。
(担当：1-)

図書委員おすすめの本 テーマ 冬のスポーツ

『遊 you キッズスキーイング』 野沢温泉スキークラブ編著 784円

今回のテーマは「冬のスポーツ」ということでおすすめの本は遊 you キッズスキーイングという本です。冬のスポーツといえば、スキーを想像する人が多いと思います。2年生もスキー教室がありそこで初めてスキーをする人もいたと思います。スキーは単純なスポーツですが、初めてやる人には日常生活でスキーに似たことをやることはほとんどないのでとても難しいと思います。ですがこの本はイラストも描いてあり、やってはいけないことも書いてあるので初めてスキーをする人以外にもお勧めです。(担当：1-)



『スキー上達BOOK』 渡辺一樹著 784円

この本はとても分かりやすく図にまとめられていて文字を読むのが苦手な人でも簡単に読めると思いました。そして、コツなどが簡単に分かり、名前のように上達すると思いました。僕もこの本を読んでスキーをしたいと思いました。
(担当：1-)

『羽生結弦物語』 青嶋 ひろの著 (未所蔵の本です)

私が冬のスポーツでお勧めする本は「羽生結弦物語」です。この本には伸びやかな滑り、見る人を虜にする演技、迫力のあるジャンプ。オリンピックという大舞台上、はなやかに、そして力強く舞い、頂点に立った。日本人男子のフィギュアスケートで初めての金メダリスト羽生結弦について書かれています。

お姉ちゃんについてスケートを始めたのは4歳。「やめたい壁」やリンクの閉鎖、震災もあったけれど、一歩一歩進み続けた。「練習はきらい、試合は大好き！」だった男の子が世界で輝くまでのお話です。皆さんもこの「羽生結弦物語」を読んで羽生結弦選手のように自分の趣味に没頭してみたいかたがでしょうか。
(担当：1-)

